



協働のまちづくりを実現する 市民討議会 NEWS

発行：令和5年12月 伊予市企画政策課 [伊予市米湊820番地 089-909-6364]

第7回伊予市市民討議会を開催しました！

10月1日(日)、市役所の会議室にて、「協働のまちづくりを実現する市民討議会」を開催しました。平成27年から始まった市民討議会は、今年で7回目となります。今回は無作為抽出により2,000名の市民の皆さんにご案内し、希望された30名の市民の皆さんと愛媛大学の学生さん12名、若手職員6名の計48名で討議を進めました。

市民討議会の目的とこれまでの市民討議会の成果を確認した後、旗揚げアンケートで、皆さんが日常的に利用しているデジタルツールについてお聞きしました(p2)。続いて伊予市と連携^{*1}しているソフトバンク株式会社から、デジタルで暮らしを豊かにする6つのプロジェクトを提案してもらい、その優先順位を付けていただきました(p2~3)。

午後は席替えをして、伊予市の人口減少対策について検討しました。まずは現在伊予市が取り組んでいる人口減少対策の4つの柱と、伊予市の人口減少の現状について解説しました(p4)。その後、グループで「わたしが人口減少を実感したできごととは？」をテーマに自己紹介をしていただきました(p5~8)。それからChatGPTの使い方を学び、伊予市に必要で効果的な対策について、ChatGPTを活用しながらグループ提案にまとめ、全体場で発表していただきました(p8~15)。最後に感想カードを書いていただき(p16~20)、終了しました。

今回の市民討議会は、全体として若い参加者が多かったことが印象に残りました。三度目の参加者も現れ、こうした熟議の『場』が伊予市でも定着しつつあるように感じたところです。初めての試みとしてDX化を推進する伊予市の取組を受けて、ソフトバンク株式会社の協力を得て生成AIの活用を実験的に取り入れたことにも触れておきたいと思えます。これからも市民討議会が続きますように!!

※1 伊予市とソフトバンク株式会社は、令和2年に「デジタル通信技術(ICT)を活用したまちづくりに関する連携協定」を締結し、様々な取組を行っています。

<市民討議会プログラム>

1：はじめに

第1ラウンド

- 2：全体で旗揚げアンケート
- 3：伊予市DX化計画の提案
- 4：提案された6つの提案を評価しよう
- 5：全体場で結果を確認します

第2ラウンド

- 6：伊予市の人口減少の実態と対策
- 7：グループで自己紹介
- 8：ChatGPTを体験してみよう!
- 9：ChatGPTへの質問を考えよう

第3ラウンド

- 10：伊予市の人口減少対策を考える
- 11：まとめ

合併した平成17年の人口は41,082名でしたが、この8月末には35,607人になりました。伊予市の第二次総合計画では「3万人が住み続けられる自治体」を掲げ、職員一丸となって、そのために何をしたらいいのかを考えています。高齢の方が伊予市を終の棲家にして良かったと思っただけの施策や、子どもたちが笑顔で学校に行ける環境、現役世代が生きがいを持って働きに行ける施策、それは当然のことながらやっつけていかなければなりません。

そして魅力の発信です。今日もJR伊予市駅前の町家で、愛媛CATV開局記念番組があり、私がプロデュースした「未来につながる架け橋を3万人が住み続けられる伊予市のために」と合わせて伊予市のYouTubeで流します。ご興味のある方はまたのぞいてください。

お集まりの皆さま方には、この伊予市をより良くしていこうという思いを我々と共有していただくようお願い申し上げます。



[武智邦典市長]

旗揚げアンケート『あなたはどれだけデジタル人？』

最初に、皆さんがどれくらいデジタルツールを利用しているのか、旗揚げアンケートを使って全体で確認しました。その後、グループごとに自己紹介をしていただきました。

旗揚げアンケート1

【設問】日常的に利用しているデジタルツールは？

① LINEやメールを利用するくらい	45
② インターネットを使って買物やお店の予約をしている	34
③ お店で買い物をする時に電子マネーを利用している	35
④ マイナンバーカードを使って手続をしたことがある	19
⑤ その他（ChatGPTやzoomなど）	20

該当する番号
全ての札を挙げて
いただきました



ソフトバンク株式会社が提案する 伊予市DX化計画

伊予市と連携しているソフトバンク株式会社から、デジタルで暮らしを豊かにする6つのプロジェクトを提案してもらいました。説明を聞いた後、まずは個人で優先順位をつけ、その後グループで話し合っ、市民目線での優先順位を決めていただきました。

提案1

自動運転モビリティサービス

- ◆地方のバス会社に占める赤字の割合はほぼ100%
- ◆人口減少で乗る人が減ったことやドライバー不足により廃止路線が増え、自動運転バスが求められている
- ◆2023年4月1日から、遠隔による監視を行うなどの条件のもと、自動運転レベル4で公道での走行を認める新制度が導入された
- ◆ソフトバンク子会社（BOLDLY株式会社）は地元のバス・タクシー会社と連携して、自動運転を導入するためのサービスを提供
- ◆伊予市でも2022年9月、10月に実証実験を行った

< 自動運転のレベル分け >

レベル	概要	運転操作の主体
Lv. 5	○完全自動運転 常にシステムが全ての運転作業を実施	自動運転装置 (システム)
Lv. 4	○特定条件下における完全自動運転 特定条件下においてシステムが全ての運転作業を実施	自動運転装置 (システム)
Lv. 3	○条件付自動運転 システムが全ての運転作業を実施するが、システムの介入要求等に対して運転者が適切に対応することが必要	自動運転装置 (システム) 自動運転装置の作動が困難な場合は 運転者 (人)
Lv. 2	○特定条件下での自動運転機能	運転者 (人)
Lv. 1	○運転支援	運転者 (人)

提案2

ヘルスケアアプリ「HELPO」

(5つの機能)

- ①健康医療相談チャット
 - ・ 医師や看護師、薬剤師が対応
 - ・ 24時間365日、リアルタイムにチャットで回答
- ②オンライン診療
 - ・ 自宅にいながら受診が可能（平日夜間、土日も対応）。受診、処方、決済まで対応。
- ③HELPOモール
 - ・ 日用品や一般用医薬品を買えるEC
- ④病院検索
 - ・ 日本全国の病院の詳細情報も確認可能
- ⑤歩数計
 - ・ スマホに歩数が記録される

提案 3

マース（医療、行政）

- ◆マース(MaaS) Mobility as a Serviceの略で移動型のサービスのこと
- ①オンデマンドバス
 - ・路線バスとタクシーの間のような形で予約をして利用する、小さなコミュニティバスのようなもの
- ②不動産から可動産へ
 - ・移動型診療車、移動型市役所サービス等

提案 4

スマート農業

- ◆ロボット技術や情報通信技術を活用し、省力化、精密化や高品質生産を実現する新たな農業。
- ◆日本の農業では担い手の高齢化が急速に進み、労働力不足が深刻な課題。
- ◆スマート農業を活用することにより、省力、軽労化が進み、新規就農者の確保や栽培技術の継承等が期待される。
- ◆e-kakashi（環境データの収集、環境データの分析支援）
- ◆ichimill（高精度測位サービス）
- ◆スマートトラップNB-IoT（NB-IoTを活用した鳥獣害センサーなど）

提案 5

水循環DXモデル事業

- ◆水道管の老朽化や維持コストの増大、赤字経営等は、全国的な課題
- ①「WOSH」手洗いスタンド
 - ・使った水をその場で浄化して、繰り返し利用が可能
 - ・約20Lで1,000人の手洗いが可能
- ②「WOTA BOX」
 - ・排水の約98%をリサイクル
 - ・約100Lで100回分のシャワーが使える
- ③「小規模分散型水循環システム」
 - ・雨水だけで生活が可能
 - ・西予市、今治市、伊予市で実証実験を行う予定

提案 6

スマートコーチ

- ◆ICTを活用したスポーツの遠隔指導
- ◆アプリで生徒の動画を撮り、専門コーチに送って指導してもらう。送った動画に添削をしたものが返ってくる仕組み。
- ◆タブレットやスマホとPCがあればどこでも、簡単な操作で指導受講ができる。
- ◆2022年、伊予中学校と港南中学校の野球部ではホークス球団のOBである元プロ野球選手の指導を受けた。

優先順位

提案	順位	1 G	2 G	3 G	4 G	5 G	6 G	7 G	8 G	個人票
② ① 自動運転	2	2	3	4	1	2	2	3	2	33
② 健康アプリ	5	1	5	5	5	6	3	5	4	15
① ③ マース(医療・行政)	1	3	1	2	4	1	1	1	1	35
③ ④ スマート農業	3	5	1	1	3	5	4	4	3	27
⑤ 水循環再生技術	4	4	4	3	2	4	5	2	5	21
⑥ スマートコーチ	6	6	6	6	6	3	6	6	6	13

<導入にかかるコスト>

- ◆自動運転が突出して高く、億単位のレベル
- ◆マース(MaaS)は普通の車両を利用するので、自動運転に比べてかなり少ない予算で可能
- ◆水循環再生技術は規模が大きくなればなるほど高いが、手洗い程度であれば車を買う程度

<伊予市の今後>

- ◆伊予市としては①③⑤により力を入れ、可能であればスマート農業やスマートコーチも導入したい
- ◆自動運転バスについては国の補助金をいただき、1億4千万円をかけて今年、実証実験を行いたい

伊予市の人口減少の実態と対策について

現在、伊予市が取り組んでいる人口減少対策の4つの柱と、人口減少の現状について解説しました。その後、『わたしが人口減少を実感したできごととは？』を自己紹介カードに書き、グループごとに紹介しました。

人口減少対策に関する国や地方自治体の大まかな方向について

- 合計特殊出生率^{*1}が1989年（平成元年）に1.57まで下がったことを「1.57ショック」と言います。これは多くの関係者を驚かせ、少子化問題が広く認知される契機となりました。
- 以降、国は平成6年のエンゼルプランに始まり、数々の施策を実施しています。
- 伊予市も伊予市版の人口ビジョンや総合戦略を策定し、市の目指すべき将来像や具体的な取り組みを示した総合計画と一体的に展開しています。
- 30年以上前から少子化、人口減少に対する取組が行われてきましたが、昨年の合計特殊出生率は、1.26で戦後最低の数値となっています。

※1 合計特殊出生率：15～49歳までの既婚・未婚問わない全女性の年齢別出生率を合計したものの

人口減少対策の4つの柱

1 第1の柱 『地方に仕事をつくる』

- ・人が住み続けられるためには、まず仕事「稼ぐ力」が必要！
<市の取組例>新規就農者の確保、育成事業や創業支援事業、企業誘致、企業留置事業等

2 第2の柱 『人の流れをつくる』

- ・来て（戻って）、留まって、関係をもってもらうことが必要！
<市の取組例>移住・定住推進事業、ふるさと納税制度活用事業等

3 第3の柱 『結婚・出産・子育ての希望をかなえる』

- ・安心して、希望する子どもを産み育てる環境が必要！
<市の取組例>放課後児童健全育成事業、病児・病後児保育事業、食育事業等

4 第4の柱 『人の流れをつくる』

- ・「魅力的＝住み続けられる」住民が主役の地域づくりが必要！
<市の取組例>総合防災訓練実施、地域包括ケアシステムの推進、まちづくり交付金事業等

人口減少対策の現状

【日本の人口の推移】

- 日本の総人口は平成20年(2008)の1億2,808万人をピークに毎年60万人程度減少し、今後、加速度的な減少が進むと考えられています。令和5年1月1日現在、日本の総人口は1億2,475万2千人。
- 令和5年(2023)4月に国立社会保障・人口問題研究所が発表した最新の「日本の将来推計人口（令和5年推計）」では、総人口は2070年に現在の約7割に当たる8,700万人にまで減少、65歳以上人口はおおよそ4割に達するという結果が示されています。

【伊予市の人口の推移および見通し】

- 平成2年(1990)頃に42,000人を割り込むと、以降、減少傾向に歯止めがかからず、国立社会保障・人口問題研究所の「平成30年推計」によると、令和27年(2045)には現在の約7割程度、26,467人まで減少する結果が示されています。伊予市の人口は令和5年4月1日現在、35,709人。
- 令和2年(2020)までは高齢人口^{*2}が緩やかに増加していますが、令和7年(2025)以降は減少に転じ、老年人口、生産年齢人口^{*3}、年少人口^{*4}とも減少となる見込みです。令和22年(2040)の生産年齢人口は45年間で半減する見込みです。

※2 老年人口：65歳以上 ※3 生産年齢人口：15～64歳 ※4 年少人口：14歳以下

『わたしが人口減少を実感したできごととは？』

※以降、参加者からのコメント等は、原文のまま掲載しています

学校の統廃合

- 学校の統廃合により出身校が廃校になった。平成の大合併以降、若年層の都市部への流出が加速化。近所の空き家が増えた。
- 職務の中で空き家が増えていると知ったときや、学校が廃校になったとき。
- 毎年、行われていた地元のレクリエーション大会がなくなったこと。学校が統合されること。
- 通っていた幼稚園がなくなった。学校のクラスが学年で1クラスになった。電車の本数が少ない、乗っている人も少ない。祖母の家の周辺で人を見かけない。
- 幼稚園、学校の閉校。高校の入試倍率。地域行事（子どもの相撲大会がなくなる）の減少。業種による働き手不足。子育て関連施策の実施（医療費無償化など）。増税、社会保険料の増額。消防団、地域役員の担い手不足。共働き。
- 地元の小学校が廃校の危機に直面したこと。ガソリンスタンドのセルフが増えたこと。街のシャッター、空き家、耕作放棄地。電車の本数が減った。人も少ない。
- 私の母校の小学校が10年程前に統廃合で無くなった。仕事、生活環境（利便性）等の低下で、地方部から急激に低下しているを感じる。
- 自分が通っていた小学校が廃校してしまった。近い10年のうちに愛南町の小学校は2校、中学校は1校、高校は宇和島の分校になる計画が進められている。空き家が多くなったと感じる。
- 中学校の統合（双海中←上灘+下灘）。小学校の複式学級。地元と同級生がいない、戻ってきていない。
- 実家付近のエリアで高校が統合された。クラスが減った。自分も就職で地元を離れる。空き家。
- 高校の統廃合、定年延長（70才）、雇用の延長、愛護班の解体、烏ノ木団地の空き家。

クラス数や人数が減った

- 私は小学校で読み聞かせのボランティア活動を7年ほど続けているのですが、伊予小学校のクラスが多いときは、学年で3クラスあった時があるのですが現在、6学年全て2クラスしかありません。地域で愛護班としてお祭りのお世話をすることになり、子どもの人数を知ると、今後のお祭りに不安があります。各学年に2人ほどしかいないため、おみこしをはこべるのかと。あと空き家も何軒か近所にあって、そのことでも減少を感じます。
- 1学年6クラス→5クラスに（小学校）。スポーツ少年団、昔は70~80人→40人程度に。
- 子どものいる方との会話で、学校のクラスの数が2~3クラスが普通のように聞いて、わたしの時代は5クラスあったので、ほんとに子どもが少なくなったんだなぁと実感しました。
- 小学校のクラス数を聞く機会があった時、とっっても少なくなったんだなぁと思いました。他の市町村に比べて子どもへ（子育てへ）の支援が少ないと思った時に、人口が少ないからかなぁと思いました。
- 小学生時代は1クラスで人数が21人、これでも1~6年で1番人数が多く、少ない学年は7,8人程であった。中学生ではクラスに10人程増えたが、部活の人数が集まらずに苦労した。最近ではチームスポーツの人数が集まらず、活動が制限されるという話を聞く。高校、大学では目に見えて地元が同じ人が減り、友人に会う機会も少なくなったと実感する。
- 母校の中学校の1クラス人数が、自分の時よりも減少していたこと。クラブチームが合併していたこと（バスケット）。



子どもの数が減った

- 私の住んでいる地域では、どんどん子どもの数が減っているように思う。遊ぶ場所が少ないというのも関係しているのかもしれない。また高齢者の数も減っている。私は現在20歳であるが、大学進学や就職は県外という人も多い。一度出たとしても、また戻って来たいと思えるような市をつくるのが重要だと感じた。人口減少問題解決の第1の柱である「地方に仕事をつくる」について、具体的にどのような仕事があるのか分からないため気になった。伊予市だからこそできる仕事は何かということも考えてみたい。
- 8年くらい前、民生委員をしていたこともあり、小学生の登校時に見守りをしていた。年によって新1年生がゼロとか1人とか、多くても4人だった。当時、北山崎小の1年生は学年で1クラスという時もあった。また今現在、長女が子育て中（8か月の男児）であるが、近所に同学年がひとりしかいないと言っている。
- 私が生まれた家族の数が、今では半数以下になっている。新築の住宅が建っている反面、人口減少が続いているので、1世帯当たりの人数が同様に減っているのだと実感する。
- 小中学校の生徒数の減少→私が入学（小学校）した時は100人以上いた。→中学校卒業時（小学校入学時から9年後）には60人ほどになっていた。
- 結構前の話だと、小学校の登校班が大幅に合併されたこと。私のときは3～4班組めていた範囲が、弟の代では1班になっていた。クラス数は変化していなかったから気付かなかったが、いつの間にか減少していた。高校も1～2年前から募集人数が減った。他には久万高原にフィールドワークに行った際に、昔はあの辺の森や田んぼも持ち主がいたけど、今はもうほとんどいないと聞いて、減る一方なんだなと思った。
- 世代別に見たときに、若い世代、子どもの数が少なくなった。秋祭りの参加者減少。地域の会合等の出席者減。特に中山地域、双海地域の減少率が高い。同じ伊予市でもあまり感じない地区もあり。電車の乗者数が減り空席が目立つ。
- 伝統的に続いていた、子どもみこしができなくなった。中学校の部活が学校単位だと人数が足りず、他校との合同チームで出場していた。自分を含めた家族で松山に引っ越した（交通便の悪さ）。祖父が1人で双海で生活できず、松山に来た。
- 学校のクラス数が、下の学年になるにつれ減少している。廃校してしまったり、合併したりしている。学区民運動会という地域ごとに競う運動会があるが、そのときに私が小学生の頃はかなり人が多く、1人1種目くらいしか出るものがなかったが、今は人手がおらず、1人で何種目も出ないといけなかったりしていた。

その他

- そう感じない。
- 今の家に引っ越して3年半ほどです。以前の伊予市がどうだったかは分からないので正直、人口減少を感じてはいません。今日の会で初めて伊予市の人口が減っている事を知りました。
- 湊町の町内でも、ご近所、高齢の方がお亡くなりになる事が多いです。しかし子どもさんの数は少し増えてきているかなと思います。子育て世代の仕事、収入が大事かと。
- 農作業が継続できず、耕作放棄地が増えて作物が育たないようになり、管理ができなくなっている。



空き家が増えた

- 私は中山地区から参加させてもらっています。人口減少は重大な問題ではありますが、どう対応すれば良いかわかりません。周りには赤子、小学生は一人もいません。自分の子育ての頃は田畑をかけ廻る子どもが沢山いましたが、自分の所も子どもは家から離れています。人に会ったら高齢者ばかり、家は空き家が増え、空き地も多く、若い人が集まる地区ではなくなっています。
- 家の周りに子育て世代が減り、2人世帯（老夫婦）が増えた。小学校、中学校のクラスが10クラス（1学年）あったのに減っている。空き家が目立つようになった。
- 空き家が増えている。高齢者、特に男性の死亡が多い。結婚していない人が多い。若い人が大学等で県外に出ているが戻っていない。後継ぎが戻ってこない。
- 近所の高齢者も少なくなり、空き家が増えた。時々、親戚が訪れるが皆、市外に住んでいる。自分が小学生、中学生の頃のクラスの数、人数が減少している事。私鉄、JRの利用者、便数が減少していること。
- 空き家が増えてきた。近所の人が増えなくなったのは聞くが、産まれたのは聞かない。子どもの遊ぶ声を聞く機会が減った。以前は日曜日は子どもの声が聞こえた。耕作放棄地が増えてきた。北山崎小学校の部落対抗リレーができない。秋祭りに女子も参加する。北山崎小が2クラスと聞いたとき。私たちの時は3クラス。スーパーで売っているもの、1人用が売られているものが多い。



公共交通の便や商店の減少、利用者の減少

- 秋祭りのみこしをかつぐ子どもが減少した。私が高校生のころ、私の自宅近くにもバスの停留所があり、そこから松山市駅までの間、バスで移動することができていました。ところが20代になり、バスの路線がなくなり、利用者が減っていたことに気づきました。その頃に既に人口減少により利用者が減ってバス路線の廃止が多くあったのです。
- 商店街の店舗数、金融機関の減少。鉄道利用者の減少、バス路線の廃止。小中高校の定数減。住吉祭の人出減少。
- 大学2年生の頃からプロジェクト、卒業論文で伊予市さんには関わらせていただいており、毎回、伊予市には伊予鉄の電車で来ている。心なしか平日の日中に電車に乗っている人が去年、一昨年よりも減少していたり、市役所周辺でふとお会いする方にシニア世代が多いなと感じていることが人口減少、少子高齢化を実感する部分である。
- 自分が中学生の頃、クラス数と現在の数。9→5(6)。少子化。街中の商店街の数の減少。店の種類の変化。レコード、楽器屋さん、電気屋さんの需要減。山間部、田舎へ行くと空き家の問題が多い。
- 小中学校のクラスが減少したこと。バイトの人数が足りていないこと。高校がなくなっていること。商店街のお店がなく、ほぼシャッター街になっていること。電車の本数が少なくなっていること。
- ガソリンスタンドの人。放課後に外で遊んでいる子が少ない。小学校の統合。銀行の窓口の方が少ない。商店街少。
- 古くは子どもが通う翠小学校が複式学級になった時です。まだ私の子どもが上灘保育園に通う頃は、伊予鉄バスがあり送り迎えの心配がなかったのですが、廃止になった今では共働きの夫婦は便利な所に移住するでしょう。JRも昼中は便が少なく、今後、自分で運転できなくなると移住も考える必要があります。スーパー、金融機関の減少等、人口減による利用者減少が原因だと思います。職場の誘致等、是非そちらにも予算を振り分けて欲しいです。

独身が多い、市外に出る人が多い

- 友だちの中で結婚していない子がいること。結婚を機に県外に行く人も多い。
- 資料等で数値を見た時。先代より兄弟、いとこの数が少ないと思った時。未婚者が周りに割といたりする時。自分が独身。
- 伊予市に残っている小中学生時代の同級生が少ない。独身の同世代の人が多い。空き家が増えた。
- 3人の子どもたちが伊予市に1人、神戸市に1人、福岡県に1人と県外に出てしまった。自分の両親、夫の両親共に亡くなっている。自分の家が夫と私2人、私の実家が空き家（内子町）になり相続しているが、今後、どう実家を片付けるか悩んでいる。お墓の問題で内子のお墓は私の代で継ぐものがない。夫の実家のお墓は私の長男がいるが、結婚していないので長男で最後である。
- 自分が住んでいる地域において、高齢の方が亡くなるが赤ちゃんが産まれない。進学で都市部に出たまま、その場所で結婚し家庭を持つ。あるいは仕事を得る。バスの廃線。
- 1) 主人が退職後、戻って帰って来た時、道路の遅れ（整備）、市役所が40年前と変わらなかった。2) 住宅地の中の子どもたちで地元に残っている人が少ない。3) 周りの高齢者の増加（自分も含めて）
- 私は3姉妹ですが私以外は県外におり、私自身も30年近く県外で過ごしてきました。人口減少を実感したできごとですが、私の住んでいる辺りではほとんど高齢の人しか住んでいません。私が若いと思われているのが微妙な心境です。



ChatGPTへの質問を考えよう

伊予市で取り組んでいる4つの人口減少対策の施策を実現するための具体的な方法とストーリーについて、ChatGPTに考えさせる質問をグループごとに考えていただきました。

質問シート	
【人物設定】	あなたは〇〇です。 (例) ~の行政職員、~の移住者、~の中高生、 ~地元の企業主、その他
	①
【状況設定】	人口減少によって生じる〇〇を心配しています
	②

どうしたらその人が幸せになるでしょうか。
3つの物語を考えてください。

人口減少対策の4つの柱について、ChatGPTに考えさせるための設定をグループごとに考えて、質問シートに記入していただきました。





『 地方に仕事をつくる 』

< 1 グループ >

【人物設定】 将来の伊予市への移住者（20～30代）

【状況設定】 働き先があるのか心配。
行政サービスの低下が心配。

* * * * *

< 2 グループ >

【人物設定】 市内の企業主

【状況設定】 収入の減少、後継者の不足、
従業員の確保

* * * * *

< 3 グループ >

【人物設定】 農業の新規参入者。希望：40代男性。
東京の会社は疲れて早期退職。

【状況設定】 生産物を使って景色のいいところでカ
フェをしたい。商売として成り立つか。
技術を学ぶ機会の減少。

* * * * *

< 4 グループ >

【人物設定】 あなたは果樹農家です

【状況設定】 人口減少によって生じる後継者不足
を心配しています（子どもに跡をつ
いでほしいと考えています）。そのた
め、高収入で魅力ある農業にするた
めに、どのような方策がありますか。

< 5 グループ >

【人物設定】 伊予市内の農家

【状況設定】 農家の減少を心配。農業と兼業できる
伊予市にあったらいい仕事を教えて下
さい。

* * * * *

< 6 グループ >

【人物設定】 大学で地元（伊予市）を離れ、就職で
地元（伊予市）に帰ってきた人

【状況設定】 伊予市での就職先が少なくて心配して
います。どんな所で働けますか。

* * * * *

< 7 グループ >

【人物設定】 あなたは伊予市の行政職員です。

あなたは最近、伊予市に移住してきて
仕事を探しています。

【状況設定】 伊予市の産業の衰退

* * * * *

< 8 グループ >

【人物設定】 伊予市長

【状況設定】 税収の減少、労働力不足



『 人の流れをつくる 』

< 1 グループ >

【人物設定】 やる気のある行政職員

【状況設定】 帰ってこられる環境（人、仕事等）。
田舎ならではのデメリットに抵抗を感
じる。

* * * * *

< 2 グループ >

【人物設定】 市役所の職員

【状況設定】 関係人口の減少

* * * * *

< 3 グループ >

【人物設定】 私は伊予市の移住担当の行政職員です

【状況設定】 高校卒業後、大学へ進学し、そのまま
他県で就職します。どうしたらUター
ンしてくれますか。

* * * * *

< 4 グループ >

【人物設定】 あなたは下灘に住む高校生です

【状況設定】 下灘駅を活用した体験型イベントを行
い、人の流れをつくりたいと考えてい
ます。

< 5 グループ >

【人物設定】 伊予市の中心部に住む中学生

【状況設定】 休日に友達と遊ぶ場所の減少

* * * * *

< 6 グループ >

【人物設定】 あなたは伊予市の職員です

【状況設定】 住民減少による税収入の減少と空き家
の増加を心配しています

* * * * *

< 7 グループ >

【人物設定】 あなたは子どもが都会に就職して、
1人で暮らす高齢者です

【状況設定】 老後の生活

* * * * *

< 8 グループ >

【人物設定】 伊予市議

【状況設定】 得票数の減少

3 『結婚・出産・子育ての希望をかなえる』

<1グループ>

【人物設定】 出産予定の伊予市民（女性）
【状況設定】 出産できる病院がない。小児科が少ない、救急HPがない。子育てのサポート（預けられる場所）→低料金

* * * * *

<2グループ>

【人物設定】 市外からの移住者
【状況設定】 子育て支援、結婚後、定住できるか、病院の減少

* * * * *

<3グループ>

【人物設定】 東京世田谷区から伊予市への20代前半の女性の移住者
【状況設定】 出会いの少なさで結婚できない

* * * * *

<4グループ>

【人物設定】 あなたは子育て支援を担当する市役所の職員です
【状況設定】 人口減少によって生じる子育て世帯の転出を心配しています。他の市町と差別化できる精度や取組を考えてください。

<5グループ>

【人物設定】 地方の行政職員
【状況設定】 少子化→予算が少ないため、お金をかけずに解決したい

* * * * *

<6グループ>

【人物設定】 あなたは伊予市の35歳独身男性です
【状況設定】 親から結婚するよう言われているが相手が見つからない

* * * * *

<7グループ>

【人物設定】 あなたは就職して伊予市に引っ越してきました。あなたは新婚です。
【状況設定】 出会いの少なさ、医療サービスの低下。

* * * * *

<8グループ>

【人物設定】 校長先生（小・中学校）
【状況設定】 子どもの数、クラスの数が減る。学校行事ができない。

4 『魅力的な地域をつくる』

<1グループ>

【人物設定】 伊予市で暮らすファミリー
【状況設定】 地域の人を楽しめる場所を増やす。地域の祭り事、イベントの減少。その土地の魅力（便利さだけではない）。新しいものができることで何かがなくなることもある。

* * * * *

<2グループ>

【人物設定】 大学生
【状況設定】 地元のイベントの減少、地域コミュニティの減少、自分に適した職種があるか。

* * * * *

<3グループ>

【人物設定】 現在中学生で、将来、伊予市で生活したいと思っている男の子／女の子
【状況設定】 高校、大学の選択肢が少ない。働く先が心配。店など娯楽施設が少ない。⇒人生設計

<4グループ>

【人物設定】 あなたは削り節産業の企業主です
【状況設定】 新たな魅力を算出し、地域外から観光客を呼び込みたいと思っています。そのため、削り節を使った若者が好むグルメを考えてください。

* * * * *

<5グループ>

【人物設定】 県外に住む社員
【状況設定】 地元文化（行事、施設）の減少

* * * * *

<6グループ>

【人物設定】 あなたは地元（伊予市）商店街の店主です
【状況設定】 お客様減少による廃業を心配しています

* * * * *

<7グループ>

【人物設定】 あなたは伊予市に住む中学生です
【状況設定】 自身が所属している部活動が廃部すること

* * * * *

<8グループ>

【人物設定】 PTA会長
【状況設定】 後継者

ChatGPTとの対話を通して人口減少対策を考えよう

グループごとに与えられたテーマについて、ChatGPTと「なりきりゲーム」をしながら、効果的な対策を提案にまとめていただきました。その後、今日の感想を旗揚げアンケートでお聞きしました。

第1の柱『地方に仕事をつくる』

<3グループ>

- ◇企業間ネットワーク
- ◇地元企業の需要に合った行政の支援
- ◇地元企業に合った就労支援（研修、体験etc.）
- ◇情報発信、広報活動の充実化



（ポストイット記録）

- ・ 参入者の受け皿
農業従事者とのコミュニティ作り
↓
発信の工夫、充実 → 支援体制の整備
- ・ 移住！産業参入の支援。
- ・ 農業、観光
- ・ 若者の定住促進
- ・ 高齢者支援

- ・ コミュニティ強化
- ・ デジタル化、効率化
- ・ 雇用支援→シニア層
- ・ 企業と地域の連携。
若者へのトレーニングプログラム。
- ・ 企業側の支援×行政の支援
- ・ 伊予市の営業部、関係各所の連携
- ・ 耕作放棄地、食堂、地産地消

良い活動を知る機会がないことが問題なので、情報発信や広報活動をもっと充実させる。
農業では、傷物で売れなくても食べられるものも多いと思う。そういうものを食堂や加工場に卸すような企業同士のつながりを強化すると、新たな雇用が生み出せるのではないか。
農業研修など行政が就労支援することにより、新たな人を伊予市に引き込める。

農業体験や漁業体験を通して地元の産業に関わっていく姿勢を産官民連携でしていきたい。
単一作物にこだわらず四季に併せた農業をすることで、安定的な農業の持続を行う。
オープンな産業を広めたりコミュニティを整えることでノウハウの共有、助け合いをする。
魅力ある農業をしたい若い人を受け入れやすい組織や体制が大事。

第1の柱『地方に仕事をつくる』

<5グループ>

- ◇将来、農家になるために地元農家へ弟子入りする
- ◇フルーツ狩りの農園をつくる
（地元農家からアドバイスをもらう）
- ◇果物の加工業
- ◇漁業体験（地引網漁）



- ♡Uターン者への特典
- ♡外部からの人も入りやすいオープンな産業にする
- ♡助成金による補助（行政サポート）
- ♡コミュニティでノウハウの共有等、助け合う
- ♡地元の受け入れ体制を整える

（ポストイット記録）

- ・ みかん類。生産、加工、流通。
- ・ 建設（設計、エンジニア）
- ・ 観光（イベント、ホテル、ガイド）
- ・ 高齢化のため医療、介護系
- ・ 教師、教育関連
- ・ 季節毎の地場産業
- ・ 単一果物にこだわらない農業
- ・ フルーツ狩り体験（栗拾いとかな）
- ・ フルーツ狩りの農園
（地元農家にアドバイスをもらう）
- ・ 将来、独り立ちする前に地元農家に弟子入り

- ・ 果物の加工業
- ・ 漁業体験（地引網）
- ・ 収益向上による後継者不足の解消
- ・ 地域おこし協力隊+α
- ・ 地元の雇用センターや自治体のサイトで職を紹介
- ・ コミュニティで助け合う／ノウハウとかを
- ・ 特典をつけてUターン
- ・ オープンな産業
- ・ 外部の人も入りやすいコミュニティ
- ・ 助成金を有効活用
- ・ 雇用先&雇用体制

第2の柱『人の流れをつくる』 地域に滞在しやすい住環境の整備

<1グループ>

◇空き家

- ・学生寮
- ・アートスタジオ
- ・ホームレス支援
- ・住宅協同組合

◇コミュニティ参加を奨励

- ・防災プロジェクト
- ・地域の祭り
- ・集会
- ・スポーツ大会



◇インフラストラクチャーの整備

- ・学校
- ・公園
- ・道路
- ・下水道



(ポストイット記録)

- ・住宅プロジェクト→地域に滞在しやすい住環境の整備
- ・空き家→アートスタジオギャラリー、学生寮、ホームレス支援、住宅協同組合
- ・持続可能な環境プラクティス→地域の環境に対する負担を減らす
- ・教育トレーニング、住民のスキルアップ
- ・庭とコミュニティガーデン、農地として利用→自給自足
- ・リフォームや再利用の奨励（空き家）

- ・低所得者向けの住宅プログラム
- ・低家賃で提供するプログラム
- ・新しい住宅、ビジネススペースなど再利用
- ・防災プロジェクト。防災計画を策定→訓練、準備活動
- ・コミュニティイベントの開催。地域の祭り、集会、アート展示、スポーツ大会→住民の交流の場
- ・アートと文化の振興。子ども、若者の参加。
- ・コミュニティのリーダーシップの発展支援
- ・税制の見直し→地域に投資しやすく
- ・雇用機会を増やす

地域に滞在しやすい住環境の整備が新しい人の流れを作るには必要なのでは。

活性化のため、コミュニティ参加を推奨する。伊予市が防災にも力を入れているということが分かったら安心して他の市からも移住しやすい。

コミュニティ参加については、集会単位でハザードマップ等の情報を共有する場があるといい。また、もう少し行政が主体となって、組に入ることや地域の祭りに参加するように促してくれるような仕組みがあればありがたい。

リモートワーカーに優しい街というテーマで3つの政策を挙げた。光ファイバーの整備や公共フリーWi-Fi、シェアオフィスなどを準備すれば仕事もやりやすいのではないかな。

空き家の再利用や耕作放棄地の活用をして、自給自足で低コストの暮らしをしたらいい。

伊予市がリモートワークに優しい街だということをSNS等で発信してもらい、Iターン、Uターンによって伊予市の人口を増やしていくという施策。

第2の柱『人の流れをつくる』 リモートワーカーに優しい街

<4グループ>

①高品質な

インターネット接続

- ・光ファイバーの整備
- ・公共フリーWi-Fi
- ・シェアオフィス

②低コストな生活費

- ・空き家の再利用
- ・耕作放棄地の活用で自給自足
- ・シェアカーの導入

③自然環境と

ライフワークバランス

- ・都会とは異なる豊かな自然（ストレスフリー）
- ・子どもと過ごす時間が取れる



移住者による発信や体験談が、新たな魅力を拡散し、次の移住者を生み出す



(ポストイット記録)

- ・住宅支援（補助金など）
- ・地域社会の魅力向上
- ・就職支援
- ・リモートワーク企業への誘致
- ・地元産業の振興

- ・リモートワークセンターの設立
- ・高品質なインターネット接続
- ・低コストな生活費
- ・自然環境とライフワークバランス



第3の柱『結婚・出産・子育ての希望をかなえる』

<6グループ>

◇出会いの場を作るための地域イベント（←市が全額支援）の開催

↑
参加人数を集めるために情報提供
Ex) X、TikTok（フォローした人に特典）

◇婚活、子育ての相談窓口

◇婚活支援セミナー



（ポストイット記録）

- ・同一の趣味を持つ人が集まるイベント開催
- ・地域のコミュニティに参加
- ・情報提供とコミュニケーションの強化
- ・集まれる施設
- ・地域イベント、フェスティバル
- ・地域社会への参加
- Ex)教育機関、カルチャーセンター

- ・相談支援窓口（市）
- ・住民向けの婚活支援セミナー
- ・ウェブサイト、広告媒体
- ・図書館でのパンフ、ポスター
- ・X、TikTokをフォローしたら特典がもらえる

まちコンや合コンの場を地域がまちを挙げて開いていくことで、そのまちで結婚する若者が増えるのではないかな。それらの情報はInstagramやTikTokなどで発信していくのが効率がいい。フォロワーの中から、抽選でギフトカードをプレゼントするなどフォロワーが得になるようにして、見てくれる人の数を増やす。老後まで安心して生活できるよう一生幸せに過ごす相手を見つけることやコミュニティがあることも大事だと思う。

ChatGPTから「地域のコミュニティに参加した方がいい」という言葉が何度も出てきた。今は集まって話をする場や機会が少なくなっている。今回のような会をもっと増やしていけばコミュニティも広がるし、魅力を感じる方も増えるのではないかな。まずはこういうイベントに参加してくれる母体を増やす取組をしていただけたらありがたい。

ChatGPTに移住者という設定で問い合わせをすると、地域、自治体の協力ということが多く出てきた。

結婚イコール出産ではなく、間に何かしら障害があるので、それを全般的にサポートしてこそ人口増加につながっていくのではないかな。妊娠や出産のサポートをするためにも産婦人科が必要。

子育てサポートの情報を知らないという声がたくさんあったので、もう少し細かい情報を市民の皆さんに知っていただくようにすれば良いのではないかな。

私は郡中おやじの会をやっている。今、子ども会や班がなくなっていく中、子育てに積極的に協力して、住みやすいまちをつくらしていきたい。

第3の柱『結婚・出産・子育ての希望をかなえる』

<8グループ>

◇産婦人科を設ける

◇子育てサポート情報をSNSで発信

◇地域、自治体の協力



（ポストイット記録）

- ・地域協力
- ・自治体の協力
- ・情報発信、SNSの活用
- ・妊娠サポート

第4の柱『魅力的な地域をつくる』

<2グループ>

- ◇リモートワークのための空き家を使ったコワーキング施設の整備
- ◇イベント開催による地域コミュニティの活性化
- ◇就職、転職への支援（第一次産業の法人化）



- (ポストイット記録)
- ・リモートワークの推進
 - ・高速インターネット接続
 - ・コワーキングスペースや共有オフィスを整備（空き家を利用）
 - ・住宅再利用プログラム
 - ・観光宿泊施設
 - ・アートギャラリーや文化センター
 - ・地域振興プログラム
 - ・特産品や観光資源を生かす
 - ・企業誘致による雇用機会の増加
 - ・農業プロジェクト
 - ・教育とスキル向上の促進

- ・大学生への最新スキルの教育
- ・再教育プログラム（転職の機会）
- ・イベント開催による地域コミュニティの活性化
- ・ボランティアと協力
- ・スポンサーシップの獲得（ふるさと納税、クラウドファンディング）
- ・オンラインプレゼンスの構築
- ・地域協議会の形成
- ・地域外の協力
- ・地域魅力の向上
- ・公共施設や公園の整備



住んでいる地域に空き家がたくさんある。現在、光ケーブルやケーブルテレビの整備が着々と進んでいる。そういうものを利用して遠くからでも、仕事ができる施設整備をしたらいいのではないか。

先日、イベントでカラーリング*をやった。一番盛んなのはグランドゴルフだが、各地区の公民館を主体にして、もう少し参加者を増やして活動ができたらいいいのではないか。

農業において、周りでも何か所か数人で集まって法人団体を作っている。農作業機械は高額なので、数人が資金を出してやっている。そういう支援をしていただけたら良い。

若者向けで、削り節を使ったアイスクリームを提案したい。またChatGPTにバズりそうな、若者向けで都会の人にも受けそうなネーミングを聞いたところ、例として「節の夢」、「クレージーバックビート」というのが出てきた。

・子どもが通いたい学校なら、お父さん、お母さんがよそからでも来てくれて、結局人が集まるのかと思う。

・地元の特産を使ったアイス、グルメを集めて、外に発信したらどうか。

※カーリングからヒントを得て平成5年6月に誕生したインドアスポーツ

第4の柱『魅力的な地域をつくる』

<7グループ>

- ◇通わせたい学校づくり
- ◇地元の企業と連携

- ・教育のスキル向上
- ・小規模クラスの導入



- ・伊予市の特産品を使った新グルメの考案
- ・若者向け！削り節を使ったアイスクリーム
- ・バズりそうなネーミング
例)節の夢、クレージーバックビート



- (ポストイット記録)
- ・プロモーション活動。学校内外でSNS、ポスター、チラシ
 - ・同好の士を探す
 - ・活動成果をアピール
 - ・他の部活動と協力して、共同イベントの開催
 - ・スポンサーシップ。地元の企業と。資金援助。
 - ・生徒募集のキャンペーン
 - ・提携と連携。他の中学校と協力する。
 - ・学校イメージの向上
 - ・カリキュラムの多様化



- ・教育現場の品質向上
- ・プロフェッショナルディベロップメント。先生のスキル向上
- ・魅力的な学校。教育プログラム、安全、小規模クラス
- ・削り節ラーメン、削り節ピザ、削り節焼きそばバーガー、削り節アイスクリーム
- ・削り節アイスクリームの名前「節の夢」「シーフードスウィール」「クレージーバックビート」かつおクリーム、ごまかすアイス

旗揚げアンケート2

設問：ChatGPTを利用してみてどんなことを感じましたか？

① 大きな可能性を感じた	16
② 可能性はあるかも知れないが使いこなすことが難しそう	22
③ 結局のところあまり役に立たないのではないか	1
④ 今日の体験だけではよく分からない	5
⑤ その他	2

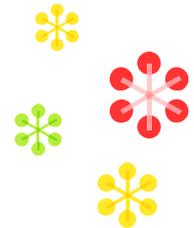


(5を選んだ方のご意見)

- 使い分けが必要だとすごく感じました。
- タブレットからずらっと回答が出てきた後に「簡潔に」というたった一言を入れたことで、簡潔な言葉が出たことが最後になって面白かったです。70歳を過ぎて、ちょっと遊んでみようかなと思いました。

(3を選んだ方のご意見)

- 高齢になった私にはあまり必要性がないかと思って3を選びました。



旗揚げアンケート3

今回提案した伊予市の人口減少対策の有効性についてお聞きします

① 対策に特効薬はない、提案を一つずつ実行していくしかない	15
② 今日の提案では不十分であるもっと議論する必要がある	5
③ 問題について理解は深まったが、解決の難しい問題である	22
④ 人口減少はいけないことなのだろうか、発想の転換が必要である	5
⑤ その他	1



(5を選んだ方のご意見)

- 紙の上の討論が楽しかったですし、先生がおっしゃったことも、半分は分かります。家に帰ってお風呂に浸かってかみしめたいと思います。息子夫婦は子どもがおらず、娘は独身主義です。娘に戻ってくるかと聞いたらあり得ないと。じじばの面倒は見るけれども、そのサポートがまだ足りないということだったので、市長さん、市の職員さんたちは頑張ってサポートをお願いします。



(4を選んだ方のご意見)

- 人口減少は国の問題。何十年後に8,700万人になった時に人口の分捕り合戦をやるのではなく、行政も含めて我々が、どういう形で暮らしていけるのかをもう少し深掘りして考えていくことも必要だと思います。多くの方に伊予市に来ていただき人口を増やすために、東京や大阪から引っ張ってくるのか、できるのかを考えることも必要です。伊予市の人口が27,000人をきったときに、どう皆さんが幸せに暮らしていけるのかを片方では考えていくべきではないかと思います。
- 人口減少していく時代に、人口の多いところから引っ張ってくるのはゼロサムの社会で、奪い合いです。人口減少対策として日本人だけで考えずに、移民という手もありますし、人口を増やす手段を、地場だけの問題だけではなく、そこに目を向けてもいいのではないかと思います。単なる居住の人口を増やすのではなく、自然を残した状態で安らぎに来てもらうという観光人口を増やす手もあろうかと思うので、3万人維持は大事でしょうけれども、なるようにしかならないので、その点を発想の転換も必要ではないかと思います。

感想カード

最後に、本日の市民討議会についての感想を書きいただきました。

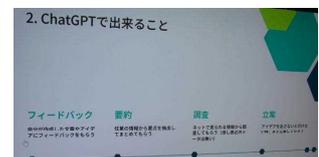
市民の皆さんの感想

～きちんと施策に生かしてほしい～

- 「市民討議会」について初めて知って、初めて参加しました。今回7回目ということで、今まで6回開催されて何か具体的に変わった事、生かされた事があるのかな?と思いました。単に「伊予市として」こんなことをしましたよ!という取組というだけでなく、話し合ったことが大きく生かされ、成果として残ればいいなと願います。そうでなければ単に長い話し合いに終わるように思いました。
- 今回、市民討議会へ参加できてとても良かった。人口減少問題には行政は大変苦勞されているということが理解できた。今回の討議が、今後の市政に生かされることを切に願う。
- グループ討議で導き出した人口減少問題の解決策が、市民の声として行政に届き、伊予市が更に住みやすい、かがやく町になれば良いと思います。
- 自分の住む街、伊予市の未来像について、若い方と議論して意見交換できた事は非常に良かった。また、一般市民の意見を聞いていただける市の方針も有難い。これからも安全、安心で魅力ある伊予市になっていただきたく思います。
- 本日、初めて参加しました。長い1日になると思いましたが、思いきって参加しました。意外と時間が経つのが早くて、参加された方々とのコミュニケーションもとれて、有意義な時間でした。これがどの程度市政に反映されるかは分かりませんが、何か進展がある事を望みます。
- オール伊予市で（市、民間企業、学校連携）。伊予市の営業部を作る（伊予市を売る、稼ぐ）。伊予市の農家の収入を上げる（例：今治マルシェ）。農業で生計が立てられるようにする。愛媛県の力も借りる。高齢者の就労支援。

～デジタルツールを活用していきたい～

- 初めて会う方々と一緒に伊予市のこれからのことについて話す事ができた。伊予市らしさを残しつつ、子どもも大人もくらしやすい町にしたいと思う。いろいろな支援や産業、遊び施設などを、SNSを通じて発信したいと思った。
- デジタルの利用により、労働力が省けたり楽になる時代が来ています。コミュニケーションが減ったり、使いこなせなかったり問題もあるかと思いますが、暮らし慣れた地元で、健康に明るく楽しく長生きできる伊予市にしていきたいものです。
- 3回目の参加、何故私かと思いました。人口減少って結構シビアな問題です。我が家の子どもたちはUターンする気持ちも無く、親として子どもに願うのは無理だと思いません。夫と元気にボケずに1つずつ楽しんで行きたいと思います。コロナも少し落ち着いたので海外に行きたいなあと……。分からない事は聞く『ChatGPT』に。最初、むずかしそうだったけど、終わる頃は楽しみたいと思いました。



～いろんな方と話ができて良かった～

- ご参加された方々のご意見、大変参考になりました。良い機会を持ってました。有り難うございます。
- 久し振りに各年代の方のお話を伺えていい機会でした。少し時間が長かったです。
- コロナであまり他の人と会話する事が減っていたので、今日いろんな年代の方と話ができ、いろんな考えに触れて、自分も今日から頑張ろう！と思いました。ChatGPTもはじめて知って、自分ができるか解りませんが、ぜひチャレンジしてみたいです。今日の体験をして、自分の視野が広がったと思います。ありがとうございました（多分2回目の参加です）。
- 色んな世代の意見があり、関心が深まった。解決もむずかしいけど、伊予市は住みやすいところだと思う。
- 講師の先生、スタッフの皆さま、ありがとうございました。仕事上、まちづくりに関わっているのでも、平均よりは少しまちの活性化や人口減少について考えている気になっていましたが、参加された皆さんの多様な意見を聞き、自分がいかに一面的なものの見方、考え方をしていたか、思い知らされました。でも楽しかったです！明日からの糧にさせていただきます。貴重な時間でした。
- 討議のテーマ、最初はむずかしいと思っていましたが、若い大学生、市の職員の方、また同世代の方のいろいろな意見を聞くことができ、有意義な時間だったと思う。市長さんや議員の方々が常に言われている「3万人が住み続けられる伊予市を！」をぜひ将来にわたって実現できますよう。

～課題解決のために努力したい～

- 人口減少はしかたがないとして、高齢化社会や下支えのない税収減少など、そこから引きおこされる大きな問題も心にとめておかないといけなのではと思いました。市民レベルで考えるとできることはなかなか思いつきませんが、自分の身近にいる人を助けられるくらいの、小さな手助けをできるシステムを作ってもらえたら協力していきたいと思います。
- 広い世代の意見を交わせる貴重な体験ができた。人口減少という難しい課題ですが、少しずつ実行し成果につながるように期待している。
- 人口減少の問題は、国、県、市町村だけが考えるのではなく、国民一人一人が認識して考えないといけない。どんな対策が有効であるのか、それぞれの立場で考えたい。ChatGPTは参考になりました。
- 皆さんのいろいろな考えを聞かせてもらい、より良い地域づくりをしたいと思います。人口減少は避けて通れない現況で、老人の手助けをしていきたいと思います。
- 1日中は長いかな？と思っていたのですが、伊予市についてこれほど真剣に考えた事がなかったので、よく理解できました。地元について、愛着が増したと思います。市民討議会に参加できて良かったです。進行もスムーズでした。
- 初めての市民討議会に参加して、とまどいながらもグループの人たちの活発な意見と、いろいろな考え方があり、皆さん、伊予市をよくしていきたいとの思いは同じでした。良い経験をさせていただきました。少子高齢化は永遠の課題だと思います。皆さんの意見は少しずつでも実行していただきたい。



～伊予市を知るよい機会になった～

- 今回は市民討議会に参加する機会があり、知らなかった伊予市のことを知るいい機会となりました。年齢層もいろいろな方との話し合いはとても新鮮で、どうしたら伊予市が良い市になるかをみんなで考えることができ、本当に良かったです。もっと関心を持とうと思いました。ありがとうございました。
- ソフトバンクの会社がいろんなことに目を向けて、人の役に立つものを生んでいることを初めて知りました。伊予市に個人的に思うことは、東京の中の韓国があるように、伊予市にもそういう集まりたくなる、もうひとつのまち（場所）をつくったら、もっと伊予市を好きになる人、伊予市を知ることを楽しいと思ってくれるのではないかと思います。
- 伊予市と企業とが提携して進めている事業について説明していただいたり、伊予市の人口減少対策についてChatGPTを用いながら話し合ったりと、有意義な時間になりました。人口減少の問題は解決が難しく、対策がどれだけの効果を生むかすぐにはわからないであろうことを強く感じました。
- 最初は、課題に到達するか心配でしたが、ChatGPTを利用して目的は達成したと思います。



～もっと多くの人に参加できる場を～

- 初めて参加させていただきました。伊予市民になろうと思って家を建てて約3年半。伊予市のことあまり知らない（移住者）ので、今回参加させていただいて勉強になりました。人口減少していることも、この会で初めて知りました。なぜ人口減少しているのか、もっと具体的なことを知りたいと思いました。単に産まれてくる人数と亡くなる人の人数の差だけでなく、移住して離れていく人もいると思うので、根本をもう一度見直してみるべきではないのかなあと思いました。もっと色々な人がこの会に参加し、意見を言い合える場が増えればいいなと思いました。
- 2度目の参加になります。このような場をいただけることに感謝しますが、前回同様に参加者の方が少ないことを悲しく思います。子育て政策についての議論であれば、現在、子育てをされている方が参加できるように、預かり保育の実施も行うべきだと思います。双海や中山からの送迎サービスなどで参加者を増やす取組にも期待したいです。
- 本日、市民討議会に参加させていただき、伊予市の課題や今後の対応について、少しではありますが理解できました。行政だけでは解決できない問題も多いと思うので、言葉は悪いですが、もっと市民を巻き込んだ活動をしていただきたいと思います。本日はありがとうございました。
- ChatGPTを使う部分は無くても良いのでは。今回のような会はとても良いと思う。年代間を含めて広くやったら良いと思う。

インフラ整備：人を呼ぶためにも高速通信のインフラが重要という指摘が皆さんからあった。遅くはなったが、令和4～7年の間に全エリアで光ファイバーの整備をする予定。
農業関係：第一次産業をどうしていくかが課題だと考えている。経済を地域内で循環させながら、企業支援や研修、事業承継など全般的な取り組みも必要だと思う。
結婚、出産、子育て：産婦人科の必要性が出されたが、小児科に続いて検討していきたい。
魅力的な地域づくり：第1～3の柱すべてが整うと魅力的な伊予市になっていくということ。また情報発信については伊予市の魅力、伊予市の住みやすさを市内外に発信していきたい。



[向井企画振興部長]

愛媛大学の学生さんの感想

- 今回の市民討議会に参加してみて、実際に市民の方の声を聞き、新たな技術を媒体にして話し合いを有意義に進められたと感じました。私たち学生の意見にも積極的に耳を傾けて下さり、意見を発言しやすかったです。現実には起きている課題であるからこそ、本当に解決するには、もしくは本当にこの課題は問題なのかに対して、真剣に話し合うことができました。
- 今回初めて参加させていただいて、伊予市の人口減少の現状、今後についての理解が深まりました。一方で、その人口減少に対する対策は多方面から挙がり、それが実現すれば間違いなくより良い街にはなるけれど、実際にそれを実行に移す際のリスクなども考えると容易ではないと思いました。これからも議論の余地があると感じました。
- 過去2年間、伊予市をフィールドに活動をさせていただいていたのですが、伊予市についての理解が浅く、今日はその知識のなさを痛感するとともに、新たな学びが非常に多い時間になりました。色々な人と話すことで考えの幅を広げることができ、気づきや発見も沢山ありました。本日はありがとうございました。
- 普段お話をすることのない年齢層の方とたくさん話ができて、貴重な時間を過ごすことができました。自分には無い発想や、21年住んできた伊予市の私の知らない話をするのができて楽しかったです。私は集団討論などが苦手ですが、たくさんの情報を得ることもでき、様々な面で勉強になりました。私も将来、愛媛のために働きたいと思っています。ありがとうございました。
- 去年に引き続き、愛媛大学から参加させていただき、こうして市民の方とリアルな目線で話せることが何より貴重で、今後、自分が就職して働いていくとなった時に必要な価値観が昨日の自分よりまた1つ増えたように思う。本日はありがとうございました。
- 初めて参加したが、とても良い会だったと思う。伊予市のことを全く知らない私でも参加することで、最近のDXについてや、伊予市民の想いなどが聞けて大変勉強になった。DXは聞いたことがある程度で何も知らなかったが、今回6つの取り組みを知り、興味がわいた。ChatGPTは役には立たなかったが、GPTに聞きたいことを考えるというプロセスは役立ちそうなので、便利のところだけ利用して上手くつきあっていきたい。私は、人口減少はしょうがないので頑張る必要はないと思う。ないものを得ようとするよりも今あるもの、人を大切に、伊予市民を大事にする伊予市であってほしいと思う。ありがとうございました。がんばって下さい！
- 普段関わる事のない参加者の方たちと様々な意見を交換できて良い経験になった。初めてのChatGPTも、使い方しだいではとても便利だと思った。
- 市民の方や行政の方と話す機会はなかなかないため、地域の人口減少といった課題を様々な観点から話し合い、交流することができて、とても良い経験ができた。またChatGPTは普段使う機会は少なく、今回で効果的な活用方法や良い回答を引き出すテクニックなどを知り、実際にためてみることでできて勉強になった。また機会があれば参加したい。
- 日常生活をおくっていく中で今回のように様々な年代の人と意見交換をする機会はとても少ない。様々な考え方や立場、問題があるからこそ世代を超えて意見交流をすることが大切だと感じた。とても面白かった。
- 今日一日活動を行い、伊予市に住む人がどれだけ真剣に伊予市の将来について考えているのかを知ることができた。今回、決定的な方針が決まらなかったとしても、このように考えている人が居ると分かった時点で、大きな収穫だと感じた。今後は人との繋がりをより意識して、伊予市の力になれるように活動していきたい。

○今日初めてChatGPTを使用しました。ユニークな発想や様々なデータを踏まえたであろう提案などがあり、参考になりました。ChatGPTで質問したことも生かして、人口減少対策を考えるとというのはとてもおもしろい手法でした。多くの経験や知識を有する方々と、活発な意見交換ができました。まずはこのような機会があることをきちんと発信していくこと、イベントの回数を増やして参加者と伊予市について考える機会を増やすことが重要だと感じました。参加させていただきありがとうございました。

○今日の市民討議会では、多くの世代の人と関わり意見交換をすることで、考えを深めることができたと思う。前半のソフトバンク株式会社の伊予市のDX化計画では、マース(MaaS)やスマート農業など、知らなかったことをたくさん知ることができた。またChatGPTを用いての話し合いはとても面白かったが、やはり考えるだけではなく、自分から行動していくことが大切だと感じた。このように市民の声と市の意見を交換できる場をどんどんつくっていただければいいと思う。今回のような会に参加させていただき、ありがとうございました。

職員の感想

- 多くの人と意見交換ができてよかった。今まで思い付かなかった意見や発想を聞いた。ChatGPTはほとんど初めて使用したが、追加質問により、わかりやすくまとまった回答を得られるようになり、今後の活用を検討できるのではないかと感じた。
- ChatGPTは使い方次第かなと思った。今回、使うのが初めてだったので質問の仕方が難しかった。自分の予定と違った回答も出てくるので、誘導させることも必要だと思った。発表、グループワークを通して色々な意見が聞けて良かった。これからの行政に生かしたいです。
- この討議会で市民の方の考えや今の行政についての意見を聞くことができ、とても有意義なものとなった。今日の意見もふまえ、今後の人口減少対策PJに活用していきたい。
- 人口減少というテーマで、取り組むことができれば良いという案は思いつくが、予算的な面を考慮するとどれも難しく感じた。まずは現在の取組のブラッシュアップが現実的だと感じた。また個人的な意見として、南伊予地区は移住の需要があると聞くが、調整区域であるため、様々な制約がある。市街化区域にできれば人口増に効果があると思う。

- 伊予市の人口減少対策のテーマに対して、いつも行政職員や同じメンバーで考える機会が多かったので、今回のように市民の前向きな思いを聞いてうれしかった。市民と一緒に将来を考えていきたいと思います。流行にとらわれるということなく、伊予市らしい政策を考えたい。
- 自分が課題だと思っていることに対して、同じような考えをしている人もいれば全く違う考えもあり、普段業務をこなしているだけでは身につかない視点での意見があった。楽しかった。
- 様々な年代の方がまざって議論することにより、それぞれの視点からの提案が出てくるので、とても興味深かったです。人口という数だけに固執するのではなく、減少する中でもどのように市民が望むように生きられるのかについても考えていきたいと思っています。

若い人たちや、人生を歩んできた人たちが集まり7回を数えている市民討議会が開催されましたことに深い感慨を感じずにはられません。この討議会が、伊予市に3万人が住み続けられる一助になることを願っています。伊予市長 武智邦典